



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間刊共1100円



司教の手紙

天地の創造主、全能の

父である神を信じます

鹿兒島教区司教 中野 裕 明



教区の皆さま、お元気で
ようか？
今回は私たちが主日のミ
サで必ず唱和している使徒
信条の冒頭の句「天地の創
造主、全能の父である神を
信じます」の意味を一緒に
考えてみます。

新型コロナウイルスの世
界的感染拡大（パンデミック）
がはじまってから、約1
年半以上が経ちました。こ
のいわゆる「コロナ禍」の
中で、私たちの思考、生活
習慣、そして信仰の捉え方
などに変化が生じているで
しょうか？ もし、何の変
化も感じていなくて、旧態
以前のままの精神状態だと
したら、今後ますます悲
惨で、希望のない人生を送
ることになるかもしれない
と心配しています。（これ
はある意味、パンデミック
が起きなくても存在してい
る人間の現実でもありま
す）。人間の今日があるの
は、歴史の中でこれまでに
起こった感染症によるパン
デミックを見事に克服して
きた事実の上にあるからで
す。そのことの認識がなけ
れば、人間は悲観論者にな
ってしまいます。
それで今回は、私たちが
頂いている信仰に基づい
て、明るくて希望のある未
来を築くために神の英知に
目を向けてみたいと思いま
す。

私は、科学者ではありま
せんが、今回のコロナ禍に
あって、種々の言論人（評
論家、医者、科学者、政治
家、マスコミ等）の発言を
毎日、丁寧に聴取し、その
内容について熟考し分析を
してきました。その結果、
自分の中では、どのような
発言が事柄の本質を突いて
いるか、どの人が自己の良
心に基づいて発言をしてい
るかについて、ある程度め
どがついてきました。

- (1) ウイルスという物質（生
命体かそうでないかは現
在議論中）が感染症の病
原菌であることが判明し
たのは、20世紀に入っ
てから。
- (2) ウイルスは、動物、植
物、人間、海洋も含む微
生物の中に存在する。そ
れは細菌のように単独で
は存在できず、必ず、宿
主を必要とする性質をも
つ。
- (3) ウイルスは19世紀後半に
感染症の病原体であると
特定された細菌（ライ
菌、コレラ菌、結核菌な
ど多数）を宿主とするこ
とが判明。ウイルスの大
きさは、細菌の千分の1
程度と小さい。（電子顕

微鏡でしか捉えられな
い）
(4) 人間文明の発達以前は、
動物、植物、人間の棲
み分けがなされていた
が、人間の自然開発によ
り、棲み分けが崩されて
いった。以前ウイルス
は、動物→動物、植物→
植物の移動だったのが、
自然開発によって、動物
↓人間、植物↓人間が可
能になった。そして今、

新型コロナウイルスは、
はたして動物からの感染
なのか、あるいは人から
人への感染なのかという
一点に世界中が注目して
いる現実がある。
(5) 三番目の人間から人間へ
の感染の可能性について
は、国家安全保障上の問
題（いわゆる国家秘密）
で、誰も口外できないの
が事実。

以上の考察の後、教皇フ
ランシスコは三つの文書、
回勅「ラウダート・シー
ト」、使徒的勧告「愛する
アマゾン」、回勅「兄弟の
皆さん」で、地球規模の環
境破壊に関心を持つよう
に訴えています。教皇の心か
らの叫びを、コロナ禍以前
は空言のように捉えていた

私たちは、人類にとつて
ウイルスとの共存は宿命で
ある、と判明した今日、真
摯に自然界と人間の造り主
である神に祈りを捧げ、そ
の旨を探し求めていくべ
きではないでしょうか。新
型コロナに注意しながら、
神を畏れる日々を送りたい
ものです。「主を畏れるこ
とは知恵の初め」（箴言
1・7）

教皇フランシスコの回勅を学習

阿倍仲麻呂神父を招きコンベンツスで

十字架称賛の祝日の9月
14日（火）午前10時から教
区本部を主会場に、オンラ
インも活用して教区で働く
司祭、助祭が集うコンベン
ツスが開かれた。
この日のコンベンツスに
は神学者の阿倍仲麻呂神父
（サレジオ会）が講師とし
て招かれ、教皇フランシス

コノ回勅「ラウダート・
シー」と「兄弟の皆さん」を
学習する機会が持たれた。
中野司教の挨拶に続いて
講話した阿部神父は、教皇
フランシスコによる回勅の
狙いを「解放の神学」を唱
えたブラジルの神学者レオ
ナルド・ポフ（元司祭）の
思想などと照らし合わせな
がら解説。その上で教皇フ
ランシスコは信者には、一
部の富裕層の利益のために
地球環境が破壊され、貧し
い人々が搾取されていると
いう「現実を見」、見た現
実がどうなのかを「判断・
決断」する。そして決断し
たことを「生きる・実践」
することが大切だと説いて
いると話した。

阿部神父の講話が続いた
が、出席した司祭・助祭た
ちは静かな語り口の中にも
深みのある講師の話に聞き
入っているようだった。
講話後は教区評議会、聖
書愛読運動などについての
連絡があり散会となった。

教区シノドス総括のための
教区評議会を開催

10月17日（日）13時～16時
出席者：主任司祭と信徒代表、
司教が出席が必要とする者
※オンライン会議（原則）

カリタスジャパン全国セミナー
「コロナ禍と私たち-叫びの中からともに見出す希望-」

カリタスジャパンでは、オンライン形式で全国セミナー
を実施します。コロナ禍における叫びに耳を傾け、現状を
分かち合い、私たちに求められているものは何かを、と
もに考えていく機会としていきたいと思ひます。

- 11月3日10:00～16:00 オンライン (ZOOM) 開催
- 第1部 報告会「コロナ禍から見えてきた〈叫び〉」
10:00 教区担当者等を通して、各管区からの発表
- 第2部 討論会「〈叫び〉の中からともに見出す希望」
13:30 パネリスト (成井大介司教、飯島裕子さん、小
林未希さん、ピスカルド篤子さん、吉羽弘明さん)

参加申込方法：以下QRコード
または
<https://forms.gle/ZiCWyExv3rA9hPQv8>
よりお申込み下さい。
詳細等連絡先：E-mail: info@caritas.jp
TEL 03 (5632) 4439
カリタスジャパン事務局



前回述べたことですが、デイトニシウス自身の定義から要約すると、「ヒエラルキーとは、神から「発出」して神へ「帰還」するといふプロセスの中に、神が備えてくださった聖なる秩序があり、知識(理解)があり、活動があるというものです。「秩序」とは司教以下の聖職の3段階だけでなく、聖なる一般信徒たちの3段階、そしてまだ秘跡にあずかっていない3段階の人々のことです。

「知識」とは上位者から受ける聖書や神についての知識・理解、この世的な生活から聖なる生活に変化していくための知識・知恵です。「活動」とは秘跡や儀式への参加のことです。この秩序、知識、活動はそれぞれ別のものではなく、それらが一つとなって人を「浄化」「照明」「完成」という順で救済していくのです。この全体がヒエラルキーであり、デイトニシウスの言う「私たちのヒエラルキー」すなわち教会です。罪人の私たちは、ヒエラルキーの中で、浄められ、照らされ、完成されて、神に帰っていく。

この意味でのヒエラルキーを考える時、トマス・アクィナスが『神学大全』第3部冒頭の序文で述べていることが参考になると思います。すなわち「ご自分の民を罪から救うために、救い主イエス・キリストは真理の道を私たちに示してくださいました。私たちが再び復活して永遠の命の至福に達するためである」と述べた後、御言葉の受肉、誕生、生涯、受難、復活、昇天、そして秘跡、終末(復活と審判)などが論じられます。デイトニシウスは「イエスはあらゆるヒエラルキ

の源である」(372A)、また「あらゆるヒエラルキーの源であり完成であるイエス」(373B)と書いています。聖書にもイエスは「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ誰も父のもとに行くことはできない」(ヨハネ14・6)と云い、また「天から降ってきた者、すなわち人の子のほかに、天に上った者は誰もいない」(ヨハネ3・13)とあります。イエス・キリストが父なる神から「出て」、また神に「帰る」という活動の中に教会というヒエラルキーがあると言えます(図を参照)。

ヒエラルキーという語について (2)

紫原教会主任司祭 山口好信

の源である」(372A)、また「あらゆるヒエラルキーの源であり完成であるイエス」(373B)と書いています。聖書にもイエスは「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ誰も父のもとに行くことはできない」(ヨハネ14・6)と云い、また「天から降ってきた者、すなわち人の子のほかに、天に上った者は誰もいない」(ヨハネ3・13)とあります。イエス・キリストが父なる神から「出て」、また神に「帰る」という活動の中に教会というヒエラルキーがあると言えます(図を参照)。

るためには自らを浄め、魂の中にはどのような幻想(この世的な思い)も残っていないとはいけないのであり、さらに神聖なビジョンを受けて、もつと照らされるためである(440A)。司教はエウカリスタの祈り、つまり今の奉獻文を唱えるが、その内容は、神の救済行為の歴史を讃えるものです。人類は楽園から落ちて悪に染まってしまったが、イエスは神聖な御言葉の受肉であり、私たちと同じ生まれの者として私たちと交わり、ご自分の真の美の一部を分け与えてくださった。イエスは私たちの卑しさとご自分の至高の神的性質を結んで一つ

を食し(つまりコミュニケーション)、他の者にもそれを勧める。一つの神聖な体が多くの体に割かれ、司祭や信徒に渡される。一なるパンを多くの人が食べるが、それによって皆は一つになる。拝領を終えたら、最後は感謝の祈りで締めくく

「第一にシナクシス(集会、集い)と呼び、別名としてエウカリスタ(感謝の祭儀)、コミュニオン(交わり)と呼びます。さらにミサは洗礼その他の秘跡と比べて、「秘跡の中の秘跡」であると言います。なぜなら、私たちの種々に断片化した生を一つに聖化して

る人々に諸秘跡の神的な意味を教える。その意味で照明を与えるのは司祭の務めである。司祭は下位の者を浄化する役目を担っている。司教、司祭、助祭の3者は、聖職位階として他の人々を教会に(換言すると秘跡・秘跡に)参入させる役割を持ち、彼らの救済のため、それぞれに応じた奉仕をする。次に、一般信徒はこの世的な生き方から悔い改めて諸秘跡にあずかっている。浄められ、照らされ、聖なる神的なものとの交わりを持つている人々である。その下の、悪魔憑き、悔悛者、求道者(教理学習者)の3者については紙面の都合で説明を省きます。後のカトリック教会においては聖職者の位階だけがヒエラルキーと考えられていきますが、デイトニシウスは一般信徒を聖なる者と呼び、さらに、世俗の者であっても心を神に向けようとしている下位のグループの人々をもヒエラルキーの一部としていることは重要なことです。また、上位3者の「聖職

位階」で重要なことは、神の恵みや知識、愛などの中継・仲介者(504D-505A)になるということです。位階的な秩序を保ちながら、上位の者からいただいたものを下位の者に中継するという奉仕。人々の救済すなわち浄め、照らし、完成させる(神との一致)ための霊的な奉仕です。デイトニシウスにおいて聖職位階はヒエラルキーに仕える奉仕者なのです。

ミサの後半部分について述べている箇所を少し見てみます。司祭と助祭は祭壇に神的なパンと祝福の杯を置く。司教は聖なる平和を皆に与え、司教らは水で手を洗う。手洗いは「律法のヒエラルキー」であり、聖なるものに触れ、神と一致する

にしてくださった(444B)。奉獻文の内容自体も、またそれを唱えて祈ることもヒエラルキーの一部です。そして最も聖なる行為の執行を開始する。パンと杯は運ばれて来る時は覆いを掛けられていたのが、見えるようにされる。持ち上げられる。「私の記念」としてこれを行いなさい。あなた司教は謙虚に唱える。それが身がそれら

れ、神との一致、交わり(コミュニオン)をもたらし、してくれ、さらに参加者皆の一致をもたらし、してくるからです。前回述べたように、デイトニシウスにとってこれらは複合的な象徴群であり、ヒエラルキーの活動です。その知覚可能な象徴を超えてイエスご自身との交わりに入っていきます。ところで、トマス・アクィナスは『神学大全』第3部第63問第6項で「デイトニシウスが『教会位階論』第3章424で述べているように、この秘跡は「すべての秘跡の目的であり最終的完成である」と、また第73問第3項でも「聖体はいわば霊的生命の頂点であり、すべての秘跡の目的・終極的な



身がそれら

の秘跡の目的・終極的な

+KABAYAN SEKSYON+

Ang Karukhaan ni Kristo Nagpapayaman sa Atin

Sa pagninilay ni Papa Francisco sa kusang-loob na pagpili ni Kristo na maging mahirap, tinukoy ng Santo Papa: "Nang piliin niyang maging dukha, hindi hinangad ni Hesus ang karukhaan para sa ganang sarili nito ngunit tulad ng sinabi ni San Pablo 'upang sa kanyang pagiging mahirap kayo ay managana.'

Hindi ito paraan lamang ng pagsasalita o pantawag-pansin. Bagkus, ito ang buod ng katuwiran ng Diyos, ang lohika ng pag-ibig, ang lohika ng pagkakatawag-tao at ng krus."

Isinaad ni San Pablo na tayo ay pinalaya ni Kristo hindi sa pamamagitan ng kanyang kayamanan kundi ng kanyang karukhaan. Kaya't itinatanong ni Papa Francisco: "Ano itong karukhaan na sa pamamagitan nito'y pinalaya at pinayaman tayo tayo ni Kristo?"

Ito ang paraan ng kanyang pagmamahal sa atin, ang kanyang pakikipagkapwa, gaya ng pakikipagkapwa ng Mabuting Samaritano sa lalaking naghihingalo sa tabi ng daan (Lu 10.25)."

"Nang sabihin ni Hesus na pasanin natin ang kanyang 'pamatok na magaan' hinihiling niya na tayo'y pagyamanin ng kanyang 'karukhaan na magpapasagana' at ng kanyang 'kayamanan na karukhaan,' upang makibahagi sa diwa ng pagiging anak at kapatid, upang maging mga anak sa katauhan ng Anak."

Bilang pagtatapos, sinabi ni Papa Francisco na "masasabi natin na mayroon lamang isang tunay na uri ng karukhaan: ang hindi pamumuhay bilang mga anak ng Diyos at mga magkakapatid kay Kristo."

Pinapaalala sa atin na ang pagiging isang dukha, hindi ibig sabihin na hindi na natin kailangan ang mga bagay*bagay dito sa lupa, bagkus ang ibig sabihin na tularan natin ang naging buhay ni Kristo noong siya'y nandidito pa sa lupa, naging dukha.

Paglalakbay Kasama ang mga Dukha ng Diyos (Fr.DinoOrloff)

福者レオ七右衛門殉教祭

日時 11月14日(日) 11:00 司教ミサ
場所 カトリック川内教会

※ミサはYouTubeでライブ配信します。新型コロナウイルスリスク対応のため、小教区以外の方の参列はご遠慮願います。

*引用・参考文献は前回と同じ。トマス・アクィナスの『神学大全』は邦訳と英訳から。

教会整備終了 ご協力に感謝

瀬留教会主任司祭 宋 診旭

信徒代表 田下哲朗

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大の中で、主に主日の公開ミサ中止など、信仰的にも不安な日々が続いていますが、それでも主と共に祈りの内にお過ごしのことと思います。

さて、この度の瀬留教会司祭館屋根のトタンとお風呂場の改修工事にご寄付のお願いを致しましたところ、奄美市の教会をはじめ鹿児島教区報により事情を



足場を組んで整備した司祭館

知った方々、小教区出身の修道者、瀬留教会の歴代の主任司祭、島内外各方面より多大なご協力をいただくことができました。

私たちが小教区においても少子高齢化の波で今後のことが心配で、「何とか信仰の絆を深めたい」と内地の子や孫まで、教会の事情を説明し呼びかけを行いました。結果、当所の予定(2百万円)をはるかに上回る550万9千660円(8月末現在)の浄財をいただきました。

信仰のつながりに深く感謝申し上げます。

そこで実行委員会としては、初期の計画の他にも司祭館の外壁の補修と塗装、食堂の調度品、クローラ設置、2階居室(4部屋)床の絨毯、お御堂祭壇の絨帳、香部屋の絨毯などを整備しました。

奄美宣教130年の歩みの中で、歴代の宣教師や信徒の信仰

遺産をつなぐためにも今回の事業は私たちに与った大きな恵みとなりました。改めて、ここに感謝の気持ちを伝えたいと思います。有難うございました。

丸野六雄神父の 8日間の黙想会

コロナ禍にある今こそ、聖イグナチオの「霊操」を体験しましょう。

日時 11月22日(月) 14時30分～29日(月) 10時

場所 鹿児島教区本部一階信徒共同室

参加費 9千円(資料代)

内容 ミサ、個人の祈りと面接

定員 10人 申込締切 10月末日

申込先 丸野神父 090(3106) 6006

※新旧約聖書、筆記用具、飲み物を持参下さい。マスク着用、宿泊は各自で確保のこと。

この人

ローマで学ぶ貴島丈弥神父

ローマに留学している貴島丈弥神父が夏の休暇を利用して一時帰国し、イタリアの様子を報告してくれた。

今、ローマで勉強させてもらっている貴島です。

イタリアに渡って3年が経ちました。グレゴリアン大学最初の2年間で一つ目の修士課程を終え、今は二つ目の修士課程に取り組んでいます。一つ目は、神学校や修道生活での養成にかかわる養成者のために作られた課程でした。

養成を受ける志願者を理解しどのように寄り添って養成を進めていくのかということとを心理学、人間学、霊性神学など多角的な分野から考察します。この過程では、養成人になる人たちがまず養成されなければならぬということ、学問だけではなく、一人ひとりが自分自身を、特に心理学的に知っていくというコースを、一対一や



グループでの対話などとして取ることにあります。そのなかで受け入れがたい自分の内面を発見していき、その自分を受け入れることによつて養成が始まるということを体験していきます。とてもきつい作業でしたが、なんとか終えることができました。

今勉強しているのは、イグナチオの霊性についてです。自分自身も大きく変えられたイグナチオの霊操をもっと学びたかったからです。ザビエルと共に行われたイグナチオの霊性をしっかりと学んで、また鹿児島の地に持って帰ってきます。これからの一年でまた論文を書くことになりそうですから、みなさん、お祈りよろしくお祈りします。

「『実のならないいちじくの木』のたとえ」の始まりにある「ある人がぶどう園にいちじくの木を植え(た)」という言葉には違和感があります(ルカ13・6)。

なぜならこの「いちじくの木」は原語で単数形だからです。ぶどう園の中に一本のいちじくの木が植えられている光景をイメージすることができず、一般的な地面に這わせるようにして育てていたようです。現代でもこの栽培方法は一部の地方で受け継がれているようです。もちろん収穫量を考え

《康由神父の聖書教室》

実のならないいちじくの木

らすると比較的大きな木であることが分かります。であれば葉が茂り根も張るはずですが、ぶどうもいちじくも収穫を目的として植えているのですから、日照と土



地の養分のことを考えれば、二つの果樹を同じ場所で栽培するということは考え難いことです。だからこそ驚えなのです。そこでこの「実のならない一本のいちじくの木」がぶどう園に植えられるという話が何を意味するのかを考えてみましょう。



イザヤの預言に於いてぶどう園とはイスラエルを意味します(5・1)

2参照。

イザヤによればぶどう園のぶどうの木は好ましい実りを結ばなかったことから、植え手により焼き払われてしまうことが書かれています(5・3～7参照)。つまりイスラエルの民は神様の御心に適うものとはならなかったことから滅ぼされてしまうというのです。このことが譬えの前提となつていて考えられます。そこで主人と園丁との話に繋がるのです。この続きは来月にお話ししましょう。

会と催し 10月

- 3日(日) 年間第27主日
- 4日(月) サンタマリア神父叙階記念(1970年)
- 5日(火) 朴昶奎神父(聖フランシスコ)
- 6日(水) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 7日(木) デルクス神父命日(1980年)
- 8日(金) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 9日(土) 大松正弘神父命日(2018年)
- 10日(日) 年間第28主日
- 11日(月) 福岡英雄神父叙階記念(1989年)
- 12日(火) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 13日(水) 年間第29主日
- 14日(木) 教区評議会・教区本部・13時
- 15日(金) 聖ルカ福音記者
- 16日(土) 内野洋平神父霊名(聖ルカ)
- 17日(日) 教区司祭黙想会・22日まで
- 18日(月) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 19日(火) 青年会・鴨池教会・18時30分
- 20日(水) 年間第30主日
- 21日(木) 世界宣教の日(献金)
- 22日(金) シノドス信仰部会・教区本部・14時
- 23日(土) 大水如安神父命日(1994年)
- 24日(日) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 25日(月) 聖シモン 聖ユダ使徒
- 26日(火) 年間第31主日
- 27日(水) ミタマヤ神父命日(1984年)
- 28日(木) 日中野アカデミー、12日聖マリア学園、13日中野アカデミー、17日教区評議会、18日22日教区司祭黙想会、20日中野アカデミー、27日中野アカデミー

【祈禱の使徒会】

福音宣教 日本教会 祈りの意向 宣教師に向かう弟子たち 日常生活における宣教

シノドス信仰部会主催 第1回聖書愛読運動

今年の聖書週間を機にまず新約聖書の通読にチャレンジしませんか?

期間: 2021年11月21日～22年4月16日

対象: 鹿児島教区の全信者

※10月初めに「聖書愛読運動参加のお誘い」を各小教区に送付します。小教区では同封の「参加申込書」に参加者名を記入し、下記宛に送付してください。参加申込者には「聖書愛読運動記入票」と「完走報告書」を送付します。参加者は1章読み終えるごとに記入票の対象箇所にチェックを入れてください。完走された方は教区報に逐次発表し、早期完走者トップ10に記念品を贈呈します。

〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 教区本部
シノドス信仰部会「聖書愛読運動」実行委員会

教区シノドス これからどう進む⑬

み言葉の分かち合いとは

(6)活動計画と感謝の祈り(第六、七段階)

教区シノドス推進会事務局

長野 宏 樹

「み言葉の分かち合い」の集いでは、聖書のみ言葉についての分かち合いが終わると、第六段階としてこれまでの自分たちの日常生活や今後の活動などについての話し合いを行います。この段階は、これまで実施してきた班集いの内容と同じものだと考えればよいでしょう。

それまでの五つの段階は、六段階での話し合いを神のみ旨に沿って行えるようにするための、いわば準備段階のようなものだ、と言われることがあります。また、班(小共同体)活動が活気あふれたものになれるかどうかは、この段階での話し合いの成果いかんによる、と耳にしたりもします。

そこで、その内容について少しながめていくことにいたします。

1. 活動報告

私たちが神からゆだねられた自分たちの使命を果たそうと思っても、何をどのようによればよいのか戸惑うことがよくあります。そこで、この段階を活用して、そのための話し合いをするのです。

まず最初に、前回の集いで決めていた「活動計画」の実施状況についての報告を行っていきます。計画どおりに行えたという報告だけではなく、思いどおりにはならなかったという報告もなされていきます。そして必要であれば、どうしてそういう結果になったかについてもみんなで話し合います。

小教区司牧評議会からの連絡事項があればここで行う

2. 今後の活動について

この段階は、私たちが神のみ言葉を実行できる人間になれるためのお手伝いをしてくれる重要な段階でもあります。これまでの体験や活動の報告がすんだら、これからどんな活動をしたらよいかについての分かち合いに入ります。

テーマは、その日に使用した聖書の内容とは直接関係がないものになることが多いと思います。自分たちの班(小共同体)固有のテーマもあれば、小教区からすべての地区や班などに検討を依頼されているテーマがあるかもしれません。何をその日の分かち合いのテーマにするかは、進行係(または班長さん)が前もって準備していたものも含めて、参加者全員の合意によって決まることとなります。

たとえば、新年会をどうするかとか、二週間後の日曜日のミサの共同祈願をこの班が担当することになっているが、どういう形で対応すればよいか、あるいは、班の二人のお年寄りが入院しているが、誰か見舞いに行ける人はいるか、などのテーマの中から選ばれることもあるでしょう。

それぞれのテーマについての分かち合いの結論は、全員の合意にもとづいて出されたものでなければなりません。すなわち、誰が、いつ、どのような形で担当するか、ということについても、本人の同意のもとに、全員で合意しておくことが大切です。そう

することで、担当者はみんなの代表者であるという自覚を持って行動できるし、次の集いでの結果報告にも全員が強い関心を持って耳を傾けるようになるでしょう。

3. さまざまな会合での活用

小教区評議会などのさまざまな会合の場でも、「み言葉の分かち合い」の第1〜第4段階を活用したほうが効果的だといわれています。そのやり方については事前に根回ししておき、そのために15分くらいを当てるのがよいでしょう。

第4段階の「沈黙の時間」が



終わったら、すぐにその会合のために準備しておいた案件についての話し合いに入りまします。この部分からは、普段の会合どおりに進めていけばよいのです。

右の絵は小教区評議会の会合に「み言葉の分かち合い」を組み入れた様子を表したものです。会合の初めに聖書を朗読したり沈黙の時間をとつ

KJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 10月号

教皇パウロ6世「福音宣教」解説箇所を読んで

●テレビでアフガニスタン国民が「正義と平和」のプラカードを大きく力強く振って、この国の「正義と平和」を訴えていたのを見ました。人の道の行いは、その義が正しいもの、神のみ旨に叶うものであることが何より大切です。そのためにもこのタイトルを選びました。

この公文書の解説箇所から(抜粋)

福音をのべ伝えるための努力は、教会というキリスト者の共同体に課せられた責務であるばかりでなく、実は人類全体にも同じように与えられている」という考え方を。まさに、福音はすべての

たりすることによって会合の時間が長引く、と感じる人がいるような場合は「み言葉の分かち合い」の精神が理解できよう前もってよく説明しておく必要がありますし、会合の終わる時間はきちんと守るよう努力しなければなりません。

会合を「み言葉の分かち合い」で始めるならば、メンバー一人ひとりの個人的な霊性も高まり、その日の議案についても福音の精神にもとづいて話し合えるようになるでしょう。

その日の議案に対する結論を出すには苦勞するだろうと予想されるような場合は、その議案の解決に効果がありそうな聖書の箇所を前もって準備しておき、「み言葉の分かち合い」を活用してみんなが神の意向を聴くことができるように努めます。

この形の会合を根気よく

しよう。

「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならぬ。わたしはそのために遣わされたのだ。」(ルカ4・43) …人に対する誠実さは、主ご自身が私たちに与えてくださった「愛のおきて」に根ざしているのです。

「わたしがあなた方を愛したように互いに愛し合いなさい。これがわたしのおきてである。」(ヨハネ15・12)

福音を伝える責任は、神の民全員が担うものであるし、教会にとつて随意に選ぶことではなく、何にもましてまず取り組むべき使命であることと繰り返されています。ですから、わたしたちの信仰も、福音を生きて、分かち合うためにあるといえます。

●第1章7章では、福音化とは何か、その内容、方法…その対象、福音化の働き手の精神が述べられています。

続けていくならば、メンバーは気づかないうちに、ただ与えられた仕事や行事を処理するだけではなく、神のみ業に対する共同の責任を委ねられた者として、案件についても慎重に話し合えるようになっていくに違いありません。

4. 感謝の祈り(第七段階)

第6段階の活動計画のところ具体的話し合いを続けていく中で、激しい議論を戦わせたりして、いつの間にか祈りの雰囲気なくなってしまうと感じるようなことがあるかもしれません。たとえそのようなことがあっても、「話し合い」を締めくくる際には、その日の集いはキリストを中心に行われたものだったことを思い起こす必要があります。「み言葉の分かち合い」は、祈りで始まり、祈りで締めくくります。最初

の段階では主をお迎えする「お招きの祈り」をしました。が、最後は、「感謝の祈り」や「決意を表す祈り」「仲間や求道者のための祈り」などをすることになります。それは、最初の段階のときと同じように、自発的な「自由な祈り」であれば効果は倍増されるでしょう。

出来るだけ全員が感謝の祈りを行うようにしたいものです。各人が感謝の祈りをしてから全員で「主よ、私たちの祈りを聞いてください」と唱えます。

おわりに聖歌や「主の祈り」または「アヴェ・マリアの祈り」などで集い締めくくります。

最後に注意したいことは、途中で雑談や、隣の人のひそひそ話で霊的な雰囲気崩れないように気を付けたいものです。

と労苦を分かちながら、共に歩みたいと思います。…教会は、聖霊によって御子を宿された教会の母なる聖母の生き方を、わたしたちの宣教の模範とみなすのです。」

●今、私は、十分とは言えませんが身についている聖書のみ言葉によって、身の回りに起こる事の善悪の判断をしています。み言葉の分かち合いによって人間関係を学ぼうとすると、仲間つくりとその仲間を大事に信仰の喜びを実感する日々でありたいと思っています。

(加世田教会・川口茂)

この公文書の解説書の結論から(抜粋)

ナイス87の「宣言」には、「私たちが…ともすると内向きに閉ざされがちであった私たちの姿勢を真剣に反省し、神であるにもかかわらず兄弟の一人となられたキリストにならぬ、すべての人に開かれ、すべての人の憩い、力、希望となる信仰共同体を育てよう努めたいと思えます。…私たちが、聖霊の導きに支えられ、現代社会に生きる一人として、人々の営みに積極的に誠実な心を寄せ、そこに生きる人々の魂の飢えと渇きに共感し、とくに様々な状況の中で苦しみあえぐ人々

社会問題の分かち合い

(毎月第三土曜日)
日時: 10月16日(土)
13時~16時
場所: 教区本部
内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他